

## 【エクアドル経済:2022年5月】

### 経済指標

#### (1)2022年4月のインフレ率

国立統計・国勢調査研究所(INEC)は2022年4月のインフレ率を2.89%と発表。最も上昇率が高い都市はクエンカ(3.75%)、サントドミンゴ(3.49%)、マンタ(3.43%)であり、グアヤキル及びキトはそれぞれ3.03%と2.82%にのぼっている。交通機関の物価上昇率が最も高く(1.34%)、次いで食品・非アルコール飲料(0.52%)、家具・家庭用品(0.25%)となっている。

#### (2)ラッソ政権発足1年

ラッソ大統領は、就任1年目にパンデミック、経済危機、治安問題、刑務所における暴動という主に4つの壁に当たった旨指摘した。そのうえで同大統領は、ワクチン接種プログラムの成功により多くのエクアドル人の命が救われ、2020年には-7%を記録したGDPを2021年には4%成長させ、安定した経済状況を保っている点を政権の成果として強調し、就任2年目は安全保障及び雇用の創出に重きを置く旨明らかにした。

### 二国間関係

#### (1)イスラエルとのFTA交渉に向けた覚書の署名

プラド生産貿易投資漁業大臣及びイスラエルのバルビベイ経済産業大臣は、自由貿易協定に向けた経済・社会的協力に関する覚書に署名した。プラド大臣は自身のツイッターにて、イスラエルとの貿易協定実現に向けたアジェンダを定める「貿易合同委員会」の発足に合意し、投資機会の模索、貿易提携の促進等について協議が進められた旨公表した。

#### (2)メキシコとの貿易協定締結交渉

プラド生産貿易投資漁業大臣は、メキシコとの貿易協定締結に向けた交渉が5月23日にキトで行われる旨明らかにした。エクアドルは太平洋同盟への早期加盟を目指しており、同同盟は2011年に誕生し、世界第8位の経済圏となっている。

#### (3)チリとの貿易協定発効

5月16日、エクアドル外務省は2年間の交渉を経てチリとの貿易協定が発効し、両国間の貿易の90%以上が自由化された旨発表した。チリへの主な輸出品は石油、バナナ、魚の缶詰、エビ、皮革、プラスチック・ゴム製品、カカオ、生花等である。なお、同協定には貿易の円滑化及び規制、ジェンダー、中小企業、環境や労働問題といった新しい分野を網羅している点が特徴となっている。

### 国際機関

#### (1)IMFとの技術協定締結及び10億米ドルの融資

5月11日、クエバ経済財務大臣は2022年に行われるIMFの第4及び第5レビューに関し、公共支出の再配分や滞納金の支払い目標につき見直しを行い、同機関と技術的な合意が形成されている旨明らかにした。同レビューの承認によりエクアドルは6月を目途に10億米ドルをIMFから受け取る事となる。2022年末には第6レ

ビューが行われる見込みであり、それに伴う7億米ドルの融資を以って IMF との現行プログラムが終了する。

## **(2)エクアドルの経済指標の不透明性**

エクアドル政府が発表する財政関連データについては以前より様々な問題が指摘されており、2021年末に予定されていた IMF によるレビューが大幅に遅れた原因の一つとなっている。格付け機関のフィッチ・レーティングスはエクアドルの経済数値の不正を2020年より指摘しており、ラツソ政権も問題解消に向け修正を進めている。また、データが正確性に欠けていることにより、エクアドルの借入ニーズや IMF との合意における債務削減に必要な調整目標等が過小評価されているとの指摘が挙げられている。

## **投資**

### **(1)政権発足後1年間の投資案件**

政府は政権発足からの1年間で220件の民間投資契約を結んだと発表した。総額は約50億米ドルにのぼり、うち60%が国内投資、残り40%がスペイン、オランダ、カナダ等からの海外投資となっている。民間企業による投資は生産工場の建設やエビ養殖場施設の電化、病院の建設等多岐にわたるが、プラド生産貿易投資漁業大臣は鉱業(18%)、水産養殖(13%)、鉱業(17%)、エネルギー(16%)、テクノロジー(5%)、観光(3%)の分野が大部分を占めている旨明らかにした。

### **(2)民間投資による原油の増産**

閉鎖されている油田及び新規プロジェクト2件の入札が完了した場合、エクアドルの原油生産量は2023年の最初の数か月間において日量約26,000バレルの生産量増加が見込まれる。現在は日量約40万バレルが生産されているところ、ラツソ大統領は2022年末までに日量49万5,000バレルへの引き上げを目指している。